

## 繰り返し使える触媒

### 九大、エステル合成向け

九州大学薬学研究院の大嶋孝志教授らは、医薬品や香料などで重要なエステル化合物の合成において繰り返し使える触媒を開発した。亜鉛に医薬品原料などに使われるイミダゾールを結びつけた触媒で、実用的なうえに

使用後はリサイクルできる。研究成果は国際科学誌「アドバンスド・シンセシス&キャタリシス」に掲載された。カルボン酸とアルコールから合成するエステル化合物は医薬品や香料、高分子などで重要な化学

反応。研究グループはこれまで安価な亜鉛を使ってエステル化合物が合成できる触媒を開発してきたが、不活性ガス中の取り扱いが必要で繰り返し使えないなどの課題があった。

新たに開発した触媒は簡便に使用して、合成できるエステル化合物の範囲が広く、使用後はろ過することで回収してリサイクルできる。この触媒を新規のエステル化合物の合成にも生かせるとみている。今後は工業スケールで使える触媒の応用研究に取り組む。